



## **Cisco Unity Connection Serviceability アド ミニストレーションガイド**

リリース 11.x  
2015 年 5 月発行

**Cisco Systems, Inc.**  
[www.cisco.com](http://www.cisco.com)

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。  
所在地、電話番号、FAX 番号  
は以下のシスコ Web サイトをご覧ください。  
[www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices).

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。  
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

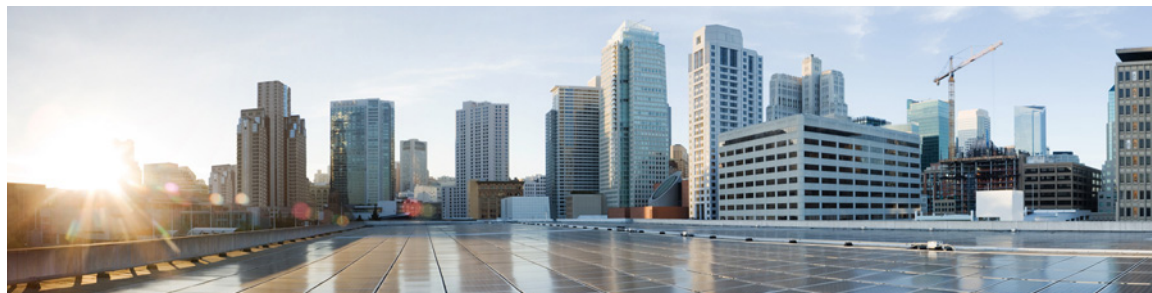
このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド、リリース 11.x  
© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



<b>はじめに</b>	v
対象読者および使用	v
表記法	vi
関連資料	vi
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	vi
シスコ製品のセキュリティ	vii
<b>Cisco Unity Connection Serviceability の概要</b>	1-1
Cisco Unity Connection Serviceability について	1-1
管理者ワークステーションでのブラウザの設定	1-2
Firefox	1-2
Microsoft Internet Explorer	1-2
Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス	1-3
Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用	1-4
<b>アラームの使用</b>	2-1
アラームについて	2-1
アラームの定義	2-1
アラーム定義の表示	2-2
アラーム設定	2-2
<b>トレースの使用</b>	3-1
トレースについて	3-1
トレース ログ ファイルの設定	3-2
マイクロトレースの有効化	3-2
使用可能なマイクロトレース	3-3
マクロトレースの有効化	3-10
使用可能なマクロトレース	3-11
<b>Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバのステータスとポートの管理</b>	4-1
<b>Cisco Unity Connection サービスの管理</b>	5-1
Cisco Unity Connection のサービス	5-1
コントロール センターでのサービスの管理	5-4

- レポートの使用 6-1**
  - レポートについて 6-1
  - レポート設定パラメータの設定 6-5
  - レポートの生成と表示 6-6
  
- ボイス ネットワーク マップ ツールの使用 7-1**
  - ボイス ネットワーク マップ ツールについて 7-1
  - Unity Connection サイト内の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定 7-2
  - ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示 7-3
  
- HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツールの使用 8-1**
  - HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツールの理解 8-1
  - HTTPS ネットワーク上の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定 8-2
  - ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示 8-3



## はじめに

---

ここでは、次の項について説明します。

- [対象読者および使用 \(v ページ\)](#)
- [表記法 \(vi ページ\)](#)
- [関連資料 \(vi ページ\)](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート \(vi ページ\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティ \(vii ページ\)](#)

## 対象読者および使用

*Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability* では、Cisco Unity Connection Serviceability を介してアラーム、トレース、クラスタ、およびサービスを設定する手順について説明します。Cisco Unity Connection または Cisco Business Edition システムを設定、トラブルシューティング、およびサポートする管理者を対象としています。IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。



### ヒント

Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の両方でサービスアビリティ関連タスクを実行します。たとえば、問題を解決するには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability は、*Cisco Unified Serviceability Administration Guide* に記載された機能をサポートしています。Cisco Unity Connection Serviceability に固有のタスクについては、このマニュアル (*Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability*) を参照してください。

# 表記法

表 1 Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceabilityの表記法

表記法	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>キーおよびボタン名 (例:[OK] を選択します)。</li><li>ユーザが入力する情報 (例:[ユーザ名 (User Name)] ボックスに <b>Administrator</b> と入力します)。</li></ul>
<> (山カッコ)	ユーザが値を指定するパラメータを囲むために使用します (例:ブラウザで、 <a href="https://&lt;Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス&gt;/cuadmin">https://&lt;Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス&gt;/cuadmin</a> に移動します)。
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します (例: <b>Ctrl-Alt-Delete</b> を押します)。
> (右向きの山 カッコ)	Cisco Unity Connection Administrationのナビゲーション バーで選択する順序を表します (例:Cisco Unity Connection Administration で,[連絡先 (Contacts)] > [システム連絡先 (System Contacts)] に移動します)。

『Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability』では、次の表記法も使用します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

## 関連資料

Cisco.com にある Cisco Unity Connection のマニュアルの説明と URL については、『Documentation Guide for Cisco Unity Connection Release 11.x』を参照してください。このマニュアルは Cisco Unity Connection に同梱されており、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/11x/roadmap/11xcucdg.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/11x/roadmap/11xcucdg.html)

Cisco.com にある Cisco Business Edition のマニュアルの説明と URL については、『Cisco Business Edition Documentation Guide』を参照してください。このマニュアルは Cisco Business Edition に同梱されており、次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/products\\_documentation\\_roadmaps\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/products_documentation_roadmaps_list.html)

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は Really Simple Syndication (RSS) フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

## シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。  
[http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear\\_data.html](http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html)







# Cisco Unity Connection Serviceability の概要

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability に関する基本情報を提供します。この章の構成は次のとおりです。

- [Cisco Unity Connection Serviceability について\(1-1 ページ\)](#)
- [管理者ワークステーションでのブラウザの設定\(1-2 ページ\)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス\(1-3 ページ\)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用\(1-4 ページ\)](#)

## Cisco Unity Connection Serviceability について

Cisco Unity Connection Serviceability は Unity Connection 用の Web ベースのトラブルシューティング ツールであり、次の機能を備えています。

- トラブルシューティングに使用できる Unity Connection アラーム定義を表示する。
- Unity Connection トレースを有効にする。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でトレース情報を収集し、表示する。
- Unity Connection トレース情報を保存するログを設定する。
- クラスタとサーバの管理 (Unity Connection クラスタが設定されている場合)。



(注) Unity Connection クラスタ機能は、Cisco Business Edition との使用ではサポートされていません。

- Unity Connection 機能サービスのステータスを表示する。
- Unity Connection サービスをアクティブ化、非アクティブ化、開始、および停止する。
- さまざまなファイル形式で表示できるレポートを生成する。

含まれているサービスとコンポーネントによっては、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスアビリティ関連タスクを実行できます。たとえば、問題をトラブルシューティングするために、両方のアプリケーションでサービスの開始と停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要になることがあります。

Cisco Unified Serviceability の使用方法については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide, Release 11.x*』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/11x/serv\\_administration/guide/11xc\\_ucservagx.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/11x/serv_administration/guide/11xc_ucservagx.html) から入手できます。

# 管理者ワークステーションでのブラウザの設定

Unity Connection または Cisco Business Edition サーバ上の Cisco Unity Connection Serviceability、Cisco Unity Connection Administration、Cisco Unified Serviceability、Disaster Recovery System、およびその他の Web アプリケーションにアクセスするには、管理者ワークステーションでブラウザを適切にセットアップする必要があります。

コンピュータにインストールされているブラウザに応じて、次の該当する項を参照してください。

- [Firefox \(1-2 ページ\)](#)
- [Microsoft Internet Explorer \(1-2 ページ\)](#)

## Firefox

Unity Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Firefox を設定するには、次のタスクを実行します。

1. 正しいブラウザの設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。  
『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 11.x*』の「[Software Requirements—Administrator Workstations](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/11x/requirements/11xcucsysreqs.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/11x/requirements/11xcucsysreqs.html) から入手できます。
2. 次に示すように Firefox を設定します。
  - a. Java を有効にします。
  - b. JavaScript を有効にして、[詳細設定 (Advanced)] で [イメージの変更 (Change Images)] を有効にします。
  - c. サイトでのクッキーの設定を許可します (セキュリティ上の理由から、送信元 Web サイトのクッキーだけを保存することを推奨します)。

## Microsoft Internet Explorer

Unity Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Internet Explorer を設定するには、次のタスクを実行します。

1. 正しいブラウザの設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。  
『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 11.x*』の「[Software Requirements—Administrator Workstations](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/11x/requirements/11xcucsysreqs.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/11x/requirements/11xcucsysreqs.html) から入手できます。
2. 次に示すように Internet Explorer を設定します。
  - a. アクティブ スクリプトを有効にします。
  - b. ActiveX コントロールをダウンロードして実行します。
  - c. Java スクリプトを有効にします。
  - d. すべてのクッキーを受け入れます。
  - e. 一時的なインターネット ファイルの新しいバージョンを自動的にチェックします。
  - f. [中 - 高 (Medium-High)] のプライバシーを有効にします。

- g. Microsoft Windows Server 2003 を実行し、Internet Explorer バージョン 6.0 を使用している場合、Cisco Personal Communications Assistant にアクセスするには、次の手順に従って信頼済みサイトのリストに Unity Connection サーバを追加します。

**Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを信頼済みサイトの一覧に追加するには (Windows Server 2003 と Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ)**

- 
- ステップ 1** Cisco Personal Communications Assistant のサインイン ページを開きます。
- ステップ 2** Internet Explorer の [ファイル] メニューで、[このサイトを追加] > [信頼済みサイト ゾーン] を選択します。
- ステップ 3** [信頼済みサイト] ダイアログボックスで [追加] を選択します。
- ステップ 4** [閉じる] を選択して、[信頼済みサイト] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 5** Internet Explorer を再起動します。
- 

## Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス

Cisco Unity Connection Serviceability に初めてサインインするときは、インストール中にインストーラからアカウントに対して指定された、デフォルトの管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用します。次回からは、作成した新しい管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用できます。

**Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスするには**

- 
- ステップ 1** サポートされている Web ブラウザを使用して、ブラウザセッションを開きます。
- ステップ 2** <https://<Cisco Unity Connection server IP address>/cuservice> にアクセスします。
- ステップ 3** 該当するユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン (Login)] を選択します。
- 

Cisco Unity Connection Serviceability にログインすると、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンボックスに表示されるすべてのアプリケーション (Cisco Unified Operating System Administration と Disaster Recovery System 以外) に対して、毎度ログインすることなくアクセスできるようになります。

Cisco Unity Connection Serviceability のユーザ名とパスワードでは、Cisco Unified Operating System Administration や Disaster Recovery System にアクセスできません。これらのアプリケーションに Cisco Unity Connection Serviceability からアクセスするには、Cisco Unity Connection Serviceability の右上にある [ログアウト (Logout)] リンクを選択し、次に [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンボックスからアプリケーションを選択して [移動 (Go)] を選択します。

[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンボックスに表示されているアプリケーションのいずれか (Cisco Unified Operating System Administration と Disaster Recovery System 以外) にすでにログインしている場合は、ログインせずに Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスできます。[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンボックスから Cisco Unity Connection Serviceability を選択し、[移動 (Go)] を選択します。

# Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用

Cisco Unity Connection Serviceability では、トラブルシューティング、レポートの生成、サービス関連タスクの実行に加えて、次のタスクを実行できます。

- 1つのウィンドウ用のドキュメントを表示するには、[ヘルプ (Help)] > [このページ (This Page)] を選択します。
- このリリースの Unity Connection または Cisco Business Edition で使用可能なドキュメントのリストを表示するには(または、[ヘルプ (Help)] の索引にアクセスするには)、[ヘルプ (Help)] > [目次 (Contents)] を選択します。
- サーバで実行されている Cisco Unity Connection Serviceability のバージョンを確認するには、[ヘルプ (Help)] > [バージョン情報 (About)] を選択するか、またはウィンドウの右上にある [バージョン情報 (About)] リンクをクリックするかします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unity Connection Serviceability 内のホームページに直接移動するには、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンボックスから [Cisco Unity Connection Serviceability] を選択します。
- Cisco Unity Connection Administration またはその他のアプリケーションにアクセスするには、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンボックスから該当するアプリケーションを選択し、[移動 (Go)] を選択します。
- Cisco Unity Connection Serviceability からサインアウトするには、ウィンドウの右上にある [ログアウト (Logout)] リンクをクリックします。
- Cisco Unity Connection Serviceability の設定ページには、ページの下部にある設定ボタンに対応する設定アイコンも表示されます (たとえば、タスクを完了するには、[保存 (Save)] アイコンまたは [保存 (Save)] ボタンのどちらかをクリックできます)。



## アラームの使用

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのアラームの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- [アラームについて\(2-1 ページ\)](#)
- [アラームの定義\(2-1 ページ\)](#)
- [アラーム定義の表示\(2-2 ページ\)](#)
- [アラーム設定\(2-2 ページ\)](#)

### アラームについて

Cisco Unity Connection Serviceability のアラームは、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報を提供するので、システム関連の問題の解決に役立ちます。たとえば、アラームを使用して、MWI を設定可能なポートが存在するかどうかを判断できます。アラーム情報には、カタログ、名前、重大度、説明、推奨処置、ルーティング リスト、およびパラメータが含まれています。

アラームの有効/無効を切り替えて、ローカル サーバまたは指定したリモート サーバに syslog として表示できます。表示する重大度を設定することもできます。

アラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。アラームを表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

### アラームの定義

アラーム定義とは、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージについて説明するものです。

[アラーム メッセージ定義 (Alarm Message Definitions)] ページでアラーム情報を参照します。アラームを選択すると、アラーム情報の説明と推奨処置が [アラーム情報 (Alarm Information)] ページに表示されます。トラブルシューティングを支援するために、定義にはアラーム名、状態、重大度、説明、推奨処置、ルーティング リスト、およびパラメータが含まれています。

## アラーム定義の表示

『*Alarm Message Definitions for Cisco Unity Connection Release 11.x*』でアラーム定義を検索して確認できます。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/11x/alarm\\_messages/11cucalrmmsg\\_def.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/11x/alarm_messages/11cucalrmmsg_def.html) にあります。

## アラーム設定

この項では、アラームを有効/無効にする方法について説明します。

### Unity Connection でアラームを有効化するには

- 
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configurations)] を選択します。
  - ステップ 2 [アラーム設定 (Alarm Configurations)] ウィンドウ
    - [Syslog ビューア (SysLog Viewer)] のアプリケーション ログ領域にアラームが記録されるようにするには、[ローカル Syslog (Local Syslogs)] で [アラームの有効化 (Enable Alarm)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 3 アラームを有効にした syslog の [アラーム イベント レベル (Alarm Event Level)] フィールドで、必要な重大度を選択します。
  - ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。
- 

### Unity Connection でアラームを無効化するには

- 
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configurations)] を選択します。
  - ステップ 2 [アラーム設定 (Alarm Configurations)] ウィンドウで、該当する [アラームの有効化 (Enable Alarm)] チェックボックスをオフにします。
  - ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。
-



## トレースの使用

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのトレースの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- [トレースについて\(3-1 ページ\)](#)
- [トレース ログ ファイルの設定\(3-2 ページ\)](#)
- [マイクロ トレースの有効化\(3-2 ページ\)](#)
- [使用可能なマイクロ トレース\(3-3 ページ\)](#)
- [マクロ トレースの有効化\(3-10 ページ\)](#)
- [使用可能なマクロ トレース\(3-11 ページ\)](#)

## トレースについて

Cisco Unity Connection Serviceability トレースは、次のような方法で、問題の解決に役立てることができます。

- Unity Connection コンポーネントに対してトレースを実行したときに作成されるログ ファイルの最大数や最大サイズなどのログ ファイルパラメータをコンポーネントごとに指定できます。
- マイクロ トレースと、必要なマイクロ トレース情報のレベルを有効にできます。
- マクロ トレース(事前に選択されたマイクロ トレースのグループ)と、必要なマクロ トレース情報のレベルを有効にできます。

ログ ファイルを設定してトレースを有効にしたら、次のいずれかの方法でトレース ログ ファイルを収集できます。

- Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Trace and Log Central オプションを使用する。詳細については、『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「Working with Trace and Log Central」の章(「Tools for Traces, Logs, and Plug-Ins」に記載)を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手できます。
- コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手可能です。



(注)

マクロ トレースまたはマイクロ トレースを有効にすると、システム性能が低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティング目的のときだけにしてください。

## トレース ログファイルの設定

Unity Connection サービスのトレース ログ ファイルを設定するには、この項の手順を実行します。



(注)

ログ ファイルへのトレース情報の書き込みを可能にするには、まず、マイクロ トレースまたはマクロ トレースを有効にして、選択した領域にトラブルシューティング情報が提供されるようにする必要があります。

### トレース ログファイルを設定するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[トレース (Trace)] > [設定 (Configuration)] を選択します。[トレース設定 (Trace Configuration)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択して、[移動 (Go)] を選択します。
- ステップ 3** [コンポーネント (Component)] ドロップダウンボックスで、トレース ログ ファイルを設定するコンポーネントを選択して、[移動 (Go)] を選択します。



(注)

ドロップダウンボックスにすべてのコンポーネントが表示されます(アクティブと非アクティブ)。

- ステップ 4** [ファイルの最大数 (Maximum No. of Files)] フィールドに、このコンポーネント用に作成するトレース ログ ファイルの最大数を入力します。
- ステップ 5** [最大ファイル サイズ (Maximum File Size)] フィールドに、このコンポーネント用に作成するトレース ログ ファイルの上限サイズ (MB 単位)を入力します。
- ステップ 6** デフォルト設定に戻す場合は、[デフォルトの設定 (Set Default)] を選択します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- ステップ 7** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 8** このコンポーネントの古いトレース ログ ファイルを新しいトレース ログ ファイルで置き換えるには、[ログ ファイルの再スタート (Restart Log Files)] を選択します。

## マイクロ トレースの有効化

マイクロ トレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントに伴う問題を解決する場合に有効にします。たとえば、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 内の Alert Central ツールで通知エラーが発生した場合は、Notifier トレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム性能とハードディスク スペースに影響する可能性があることに注意してください。





(注) マイクロトレースを有効にすると、システムパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティング目的のときだけにしてください。

### マイクロトレースを有効にするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[トレース(Trace)] > [マイクロトレース(Micro Traces)] を選択します。
- [マイクロトレース(Micro Traces)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ(Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択して、[移動(Go)] を選択します。
- ステップ 3** [マイクロトレース(Micro Traces)] ドロップダウンボックスで、有効にするマイクロトレースを選択して、[移動(Go)] を選択します。
- ステップ 4** [マイクロトレースレベル(Micro-Trace Levels)] で、有効にするマイクロトレースレベルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [保存(Save)] を選択します。



### ヒント

Unity Connection の問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にしなければならない場合があります。Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手できます。

## 使用可能なマイクロトレース

表 3-1 に、使用可能なそれぞれのマイクロトレース、分析対象の説明、生成されるトレースログのファイル名を示します。

表 3-1 マイクロトレース

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレースログのファイル名
Arbiter	コールに使用されるカンバセーション、ポート、およびコールルーティングルール	diag_CuCsMgr_*.uc
AudioStore	Media Master を使用してオーディオストリームを再生または録音する Web ベースのアプリケーションで使用されるオーディオ録音サービス	diag_Tomcat_*.uc

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
AxlAccess	電話機に関する特性を取得または設定するための AXL サーバとのデータのやり取り	diag_Tomcat_*.uc
BulkAdministrationTool	複数のユーザまたはシステム連絡先の作成、更新、および削除に使用される Bulk Administration Tool	diag_Tomcat_*.uc
CCL	カレンダー機能の会議情報の取得	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuGalSvc_*.uc diag_Tomcat_*.uc
CDE	カンバセーション エンジンとカンバセーション イベント	diag_CuCsMgr_*.uc
CDL	データベースからの情報の取得	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
CiscoPCA	Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA)	diag_Tomcat_*.uc
CML	Cisco Unity Connection メッセージストアからのメッセージの取得、テキスト/スピーチ機能を使用して電子メール メッセージを読み取るための Exchange サーバからのメッセージの取得 (IMAP を使用)	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Common	Cisco Unity Connection サービスで共有されたコンポーネントの低水準アクティビティ	<any>
ConfigData	データベース内で更新された設定データの検出	<any>
ConvRoutingRules	Arbiter からコールがルーティングされるカンバセーション	diag_CuCsMgr_*.uc
ConvSub	ユーザのアクティビティと使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
CsEws	Unity Connection から単一受信トレイ、カレンダー、および音声合成の Exchange への Exchange Web サービス コール	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMbxSync_*.uc
CsExchangeMbxLocator	単一受信トレイ、カレンダー、および音声合成の Exchange メールボックスの自動検出	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMbxSync_*.uc
CsLicense	ライセンス処理に関連した機能	diag_CuLicSvr_*.uc
CsMalUmss	CML、Notifier、および IMAP サーバによるメッセージ ストアへのアクセス	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
CsMbxSync	単一受信トレイの同期	diag_CuMbxSync_*.uc

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
CsWebDav	Exchange に関連したカレンダーアクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuGalSvc_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Cuals	ユーザを追加するための Web サービスのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
Cuca	Cisco Unity Connection Administration のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
CuCESync	Survival Remote Site Voicemail (SRSV) 処理に関連するアクティビティ。	diag_CUCESync_*.uc
CuCcmSynchronizationTasks	Cisco Unified CM からのユーザデータの同期化	diag_Tomcat_*.uc
CuCmdbEventListener	Cisco Unified CM データベース上の変更の検出	diag_CuCmdbEventListener_*.uc
cucsmgr	Cisco Unity Connection の主要プロセス、Unity Connection の起動と停止	diag_CuCsMgr_*.uc
CuDbProxy	Cisco Unity Connection クラスタのデータベース レプリケーション	diag_CuDbProxy_*.uc
CuEncrypt	暗号化(メッセージングを除く)と暗号化監査ログ	<any>
CuESD	Unity Connection の外部サービス診断ツールのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
CuFileSync	Unity Connection クラスタのファイル レプリケーション	diag_CuFileSync_*.uc
CuGal	Exchange からのカレンダーおよび連絡先情報の取得	diag_CuGalSvc_*.uc
CuImapSvr	IMAP クライアントによるボイスメッセージへのアクセス	diag_CuImapSvr_*.uc
CuReplicator	デジタル ネットワーキングのレプリケーション  (注) Debug Traces および Debug Statistics のマイクロトレース レベルでは大量のログ エントリが生成される場合があるため、これらのマイクロトレース レベルを有効にする期間は 1 時間以内にするをお勧めします。	diag_CuReplicator_*.uc
CuService	Cisco Unity Connection Serviceability のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
CuSnmpAgt	Connection SNMP サブエージェントのアクティビティ	diag_CuSnmpAgt_*.uc
DataSysAgentTasks	Data SysAgent タスク	diag_CuSysAgent_*.uc
DbEvent	データベース変更のコンポーネント通知	<any>
DPAPI	診断ポータル アプリケーションプログラミング インターフェイス Web サービスのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
EWSNotify	Exchange EWS メール ボックス同期の通知	<date in the format yyyy_mm_dd>.stderrout.log.*
FailureConv	システム エラーが発生した場合の障害カンバセーションの有効化	diag_CuCsMgr_*.uc
Feeder	<p>サイト間ネットワーキングでは、このマイクロトレースが、ローカル サイトの変更トラッキング データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート サイト ゲートウェイの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。</p> <p>HTTPS ネットワーキングではこのマイクロトレースが、Feeder のローカル サブツリーの変更トラッキング データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート ロケーションの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。</p>	diag_Tomcat_*.uc
FeedReader	<p>サイト間ネットワーキングでは、このマイクロトレースが、定期的 にリモート サイト ゲートウェイで最後のポーリング インターバル以降のディレクトリ変更をポーリングします。</p> <p>HTTPS ネットワーキングでは、このマイクロトレースが、定期的 にリモート ロケーションで最後のポーリング インターバル以降のディレクトリ変更をポーリングします。</p>	diag_Tomcat_*.uc
LicenseClient	ライセンス管理に関連した機能	diag_CuCsMgr_*.uc
Logger	トレース、ログ、およびイベントの書き込み	<any>

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
MediaMasterControl	クライアントワークステーション上の Media Master	diag_Tomcat_*.uc
MediaMasterUMS	Media Master と AudioStore 間のストリーム オーディオ録音を処理する UMS サービス	diag_Tomcat_*.uc
MediaMasterWeb	Media Master を備えた Web ベースアプリケーションで使用される Web ページレンダリングモジュール	diag_Tomcat_*.uc
MessageEventService	メッセージの到着または削除の検出	diag_Tomcat_*.uc
MiuAdm	ボイス メッセージ ポートのテストと証明書の生成に関連した Cisco Unity Connection Administration の機能	diag_Tomcat_*.uc
MiuCall	Miu とカンバセーション間のプロセス	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuDatatbase	データベースへのアクセスに関連したメディア アクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuGeneral	電話ユーザ インターフェイス (TUI) 経由のコール追跡、コール制御機能、通話待ち指示器 (MWI) のオン/オフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、基本メディアまたは WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuIO	TAPI(回線交換または Cisco Unified CallManager)連動でのメディアまたは WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuMethods	着信コールの処理、コール制御、MWI のオン/オフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、メディアまたは WAV ファイルの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuSIP	SIP コール制御	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuSIPStack	コール制御に関する低水準 SIP 相互作用	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuSkinny	SCCP コール制御	diag_CuCsMgr_*.uc
MiuTranscode	トランスコーディングに関連した低水準メディア機能	diag_CuCsMgr_*.uc
Mixer	メディアおよびテキスト/スピーチ機能に関連した低水準アクティビティ	diag_CuMixer_*.uc

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
モニタ (Monitor)	コール中のボイス メッセージ ポートのステータスとコール処理 の監視、Real-Time Monitoring Tool にポート ステータスを表示する ためのサーバ側機能	diag_CuCsMgr_*.uc
MTA	メッセージストアへのボイス メッセージの配信	diag_MTA_*.uc
Notifier	メッセージと選択されたイベント の通知、MWI のオン/オフの切り 替え	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
PCAMeetingPlace	カレンダー機能の MeetingPlace に 関連した Cisco Personal Communications Assistant のアク ティビティ	diag_Tomcat_*.u
PCUnifiedCM	Cisco Unified Communications Manager 運動に関連した Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
PhoneManager	IP フォン アプリケーションの 管理	diag_CuCsMgr_*.uc
PhraseServer	再生するプロンプトとユーザ DTMF 入力、ログはファイルに書 き込まれる	diag_CuCsMgr_*.uc
PhraseServerToMonitor	再生するプロンプトとユーザ DTMF 入力、ログはモニタに出力 される	diag_CuCsMgr_*.uc
ReportDataHarvester	レポート データベース内のエン トリに対するデータ ログ ファイ ルの内容の変換	diag_CuReportDataHarvester_*.uc
ResourceLoader	GUI での選択された言語の使用、 製品またはメッセージ情報を使用 した文字列入力	<any>
ResourceManager	使用可能なリソースを監視し、必 要に応じて Arbiter に提供	diag_CuCsMgr_*.uc
RoutingRules	コール ルーティングの決定	diag_CuCsMgr_*.uc
RSS	RSS クライアントからのボイス メールの確認に使用される RSS フィード	diag_Tomcat_*.uc
RulesEngine	コール中に行われるユーザのパー ソナル着信転送ルールの評価	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
SMTP	SMTP 機能	diag_SMTP_*.uc
SocketPoolHelper	IMAP サーバへのソケット 接続	<any>
SRM	クラスタ管理に関連した機能	diag_CuSrm_*.uc

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
SslInit	OpenSSL を使用するコンポーネントの初期化手順	<any>
SttClient	音声テキスト変換が必要なメッセージの検出、変換したテキストを元のメッセージへ添付	diag_MTA_*.uc
SttService	Cisco Unity Connection と外部のサードパーティ音声テキスト変換サービスとの通信	diag_SttService_*.uc
SysAgent	管理者が入力したシステム タスク (MWI の再同期化など) をスケジュールするシステム エージェント コンポーネント	diag_CuSysAgent_*.uc
TaskRequest	タスク管理ツールに関連した機能	diag_CuSysAgent_*.uc
TextToSpeech	テキスト/スピーチ機能のアクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc
ThreadPool	プロセッサによるスレッドの使用	<any>
TimerHelper	Conversation Manager コンポーネントで使用されるタイマー	<any>
TranscodeWeb	着信オーディオ ストリームを Cisco Unity Connection で使用されるオーディオ形式に変換する Web サーバ オーディオ形式変換ユーティリティ	diag_Tomcat_*.uc
TRaP	クライアントが電話機を録音および再生デバイスとして使用できるようにする電話での録音と再生 (TRaP)	diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
UmssSysAgentTasks	System Agent コンポーネントのメッセージ タスク	diag_CuSysAgent_*.uc
UnityAssistant	Cisco Personal Communications Assistant 内の Messaging Assistant Web ツールのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
UnityInbox	Cisco Personal Communications Assistant 内の Messaging Inbox Web ツールのアクティビティ	diag_Tomcat_*.uc
UnityPCTR	Cisco Personal Communications Assistant 内の Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールのアクティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc
Video	API を介した Unity Connection と Cisco MediaSense 間のビデオ コールのアクティビティ。	diag_CuCsMgr_*.uc
VirtualQueue	コール キューイング	diag_CuCsMgr_*.uc

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析対象	トレース ログのファイル名
VMREST	Representational State Transfer (REST) API クライアントとのデータのやり取り	diag_Tomcat_*.uc
VMWS	ボイス メッセージ Web サービスとのデータのやり取り	diag_Tomcat_*.uc
VUI	ボイス ユーザ インターフェイス	diag_CuCsMgr_*.uc

## マクロトレースの有効化

マクロトレース(事前に選択されたマイクロトレースのセット)は、Unity Connection 機能の一般的な領域をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、MWI 問題が発生した場合は、Traces for MWI Problems マクロトレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム性能とハードディスク スペースに影響する可能性があることに注意してください。



### 注意

マクロトレースを有効にすると、システム パフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティング目的のときだけにしてください。

### マクロトレースを有効にするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[トレース(Trace)] > [マクロトレース(Macro Traces)] を選択します。  
[マクロトレース(Macro Traces)] ページが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ(Server)] ドロップダウンボックスで、該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択して、[移動(Go)] を選択します。
- ステップ 3** 有効にするマクロトレースのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** マクロトレースを展開して、有効にするレベルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [保存(Save)] を選択します。



### ヒント

Unity Connection の問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にしなければならない場合があります。Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) から入手できます。



## 使用可能なマクロトレース

表 3-2 に、使用可能なマクロトレース、分析対象の説明、生成されるトレースログのファイル名を示します。

表 3-2 マクロトレース

マクロトレース名	トレースの分析対象	トレースログのファイル名
通話フロー診断	Unity Connection 経由のコールフロー	diag_CuCsMgr_*.uc
メッセージトラッキング ログトレース	メッセージ処理、メッセージを処理する オブジェクト(配信から削除まで)	diag_CuSysAgent_*.uc diag_MTA_*.uc diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuImapSvr_*.uc diag_Tomcat_*.uc
Call Control (Miu) Traces	呼制御機能	diag_CuCsMgr_*.uc
Traces for MWI Problems	MWI のオン/オフの切り替え	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
Traces for Other Notification Problems	通知機能とアウトダイヤル機能	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
Unity 起動	Unity Connection 起動機能	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc
カンバセーショント レース	カンバセーションの使用状況	diag_CuCsMgr_*.uc
Voice User Interface/Speech Recognition Traces	ボイス ユーザ インターフェイス (VUI)	diag_CuCsMgr_*.uc
メディア (Wave) ト レース	メディアおよび WAV ファイルの使用 状況	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMixer_*.uc
テキスト/スピーチ (TTS)トレース	テキスト/スピーチ (TTS) 機能、TTS と データをやり取りする別の Cisco Unity Connection コンポーネントに関するト レースを記録することもできる	diag_CuCsMgr_*.uc
Unity Connection Serviceability Web サービス	Cisco Unified Serviceability のアクティビ ティ	diag_Tomcat_*.uc
ViewMail for Outlook	Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook クライアントのアク ティビティ	diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuImapSvr_*.uc diag_MTA_*.uc diag_Tomcat_*.uc
デジタル ネットワー キング	デジタル ネットワーキング機能	diag_CuReplicator_*.uc
シングル インボックス	シングル インボックス メッセージの 同期	<date in the format yyyy_mm_dd>.stderrout. log.* diag_CuMbxSync_*.uc

## ■ 使用可能なマクロトレース



## Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバのステータスとポートの管理

Cisco Unity Connection Serviceability の [クラスタ管理 (Cluster Management)] ページを使用すると、Unity Connection クラスタ内のサーバのステータスを変更したり、サーバ上のすべてのポートで新しいコールの受信を拒否したり、サーバ上のすべてのポートを再起動してコールの受信を許可したりすることができます。

該当する手順については、『*Install, Upgrade, and Maintenance Guide for Cisco Unity Connection, Release 11.x*』の「[Configuring Cisco Unity Connection Cluster](#)」の章を参照してください。このドキュメントは次の URL から入手できます。

[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/11x/install\\_upgrade/guide/11xcuciu\\_mgx.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/11x/install_upgrade/guide/11xcuciu_mgx.html)



(注)

Unity Connection クラスタ機能は、Cisco Business Edition との使用ではサポートされていません。





## Cisco Unity Connection サービスの管理

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのサービスの管理に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco Unity Connection のサービス \(5-1 ページ\)](#)
- [コントロールセンターでのサービスの管理 \(5-4 ページ\)](#)

### Cisco Unity Connection のサービス

Cisco Unity Connection には、[表 5-1](#) に示すサービスがあります。

**表 5-1** Unity Connection のサービス

サービス	説明
<b>ステータスのみのサービス</b>	
Connection DB	このサービスは、Unity Connection データベースを有効にします。コマンドライン インターフェイス (CLI) からしか非アクティブにできません。
Connection License Manager Server	このサービスは、Unity Connection サーバのライセンスステータスを管理します。
Connection Server Role Manager	このサービスは、Unity Connection クラスタの設定時にサーバステータスを有効にします。コマンドライン インターフェイス (CLI) からしか非アクティブにできません。
Connection Serviceability	このサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability 管理インターフェイスを有効にします。コマンドライン インターフェイス (CLI) からしか非アクティブにできません。
<b>重要なサービス</b>	
Connection Conversation Manager	このサービスは、Unity Connection によるコール処理を可能にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
Connection Mailbox Sync	このサービスは、Unity Connection および Exchange 間のメッセージを同期します。

表 5-1 Unity Connection のサービス (続き)

サービス	説明
Connection Message Transfer Agent	このサービスは、メッセージストアへのメッセージ配信を有効にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
Connection Mixer	このサービスは、コール用のオーディオ(メディアストリーム)、録音メッセージ、およびテキスト/スピーチ(TTS)を有効にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
Connection Notifier	このサービスは、通話待ち指示器(MWI)のオン/オフの切り替えなどのメッセージ通知を有効にします。このサービスを無効にすると、Unity Connection の機能が低下します。
<b>基本サービス</b>	
Connection Administration	このサービスは、Cisco Unity Connection Administration とインターフェイスで保存された設定を有効にします。
Connection DB Event Publisher	このサービスは、Unity Connection データベースへの Unity Connection コンポーネントの変更の通知を有効にします。
Connection SNMP Agent	このサービスは、Cisco-Unity-MIB を使用する簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)を有効にします。
<b>オプション サービス</b>	
Connection Access Layer	このサービスは、Cisco Unity Access Layer (CUAL) の HTTP/SOAP Web サービスを使用することによって、Unity Connection とその他のサーバ間でのユーザデータの共有を可能にします。たとえば、このサービスは、Cisco Business Edition または Cisco Unity を使用したデジタル ネットワーキングで使用できます。
Connection Branch Sync Service	このサービスは、Survivable Remote Site Voicemail (SRSV)機能を有効にします。
Connection CM Database Event Listener	このサービスは、Cisco Unified Communications Manager データベース内の変更検出を可能にします。
Connection Database Proxy	このサービスは、Unity Connection サーバにインストールされていないツール(COBRAS、User Data Dump、Distribution List Builder など)を使用して、ネットワーク上の Windows クライアントから ODBC 経由で Unity Connection データベースに直接アクセスできるようにします。  このサービスはデフォルトでは無効になっています。これらのツールのいずれかを使用するには、サービスを有効にし、サービスのタイムアウトを設定し、リモート管理者ロールを持つユーザを作成する必要があります。詳細については、該当するツールのヘルプ ファイルを参照してください。
Connection Diagnostic Portal Service	このサービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Diagnostic Portal による Unity Connection 上のデータへのアクセスを可能にします。

表 5-1 Unity Connection のサービス(続き)

サービス	説明
Connection Digital Networking Replication Agent	このサービスは、デジタル ネットワーキング用の Unity Connection サーバ間でのデータ レプリケーションを可能にします。
Connection Directory Feeder	サイト間ネットワーキングでは、このサービスが、ローカル サイトの変更トラッキング データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート サイト ゲートウェイの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。
Connection File Syncer	このサービスは、Unity Connection クラスタのファイル レプリケーションを可能にします。
Connection Groupware Caching Service	このサービスは、Unity Connection によるカレンダー データ (Exchange、MeetingPlace、または MeetingPlace Express の各サーバから) のキャッシュと Exchange 連絡先のキャッシュを可能にします。
Connection HTTPS Directory Feeder	このサービスは、ディレクトリの変更について、自身の 変更トラッキング データベースと関連ローカル サブツリー ロケーションをチェックし、リモート ロケーション Reader タスクからのポーリング要求に応答します。
Connection IMAP Server	このサービスは、IMAP クライアントによる Unity Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。
Connection Inbox RSS Feed	このサービスは、RSS クライアントからのボイス メールをチェックするために RSS フィードを有効にします。
Connection Integrated Mailbox Configuration	このサービスは、Unity Connection と Cisco Unified Communications Manager 間でのユーザ データの共有を可能にします。
Connection Jetty	このサービスは、Java Web クライアントを有効にします。
Connection Message Event Service	このサービスは、Cisco Unified Mobility Advantage による Unity Connection 上でのボイス メッセージ データへのアクセスを可能にします。
Connection Personal Communication Assistant	このサービスは、Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA) による Unity Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。
Connection Realtime Monitoring APIs	このサービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) による Unity Connection 上のデータへのアクセスを可能にします。
Connection Reports Data Harvester	このサービスは、ログ ファイル内のデータから、レポートの生成に使用される、レポート データベース内のエン트리への変換を可能にします。
Connection REST Service	このサービスは、Representational State Transfer (REST) API クライアントを有効にします。
Connection SMTP Server	このサービスは、SMTP サーバによる Unity Connection 上のデータへのアクセスを可能にします。
Connection SpeechView	このサービスは、SpeechView 機能を有効にし、外部のサードパーティ音声テキスト変換サービスと通信します。

表 5-1 Unity Connection のサービス(続き)

サービス	説明
Connection System Agent	このサービスは、管理者が Cisco Unity Connection Administration に入力できるシステム タスク (MWI の再同期化など) のスケジュール設定を可能にします。
Connection Voicemail Web Service	このサービスは、Visual Voicemail などの Cisco Unified Communications Widgets によるボイス メール Web サービス (VMWS) 経由で Unity Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。
Connection Voice Recognition Transport	このサービスは、ボイス ユーザ インターフェイス (VUI) 用の音声認識エンジンで使用される動的文法の生成と配置を可能にします。
Connection Voice Recognizer	このサービスは、VUI 用の音声認識を可能にする音声認識エンジンです。

## コントロールセンターでのサービスの管理

Cisco Unity Connection Serviceability のコントロールセンターを使用して、次のタスクを実行できます。

- [オプション サービス (Optional Services)] セクションの Unity Connection サービスをアクティブまたは非アクティブにします。
- [ステータスのみのサービス (Status Only Services)] セクション内のサービスを除くすべての Unity Connection サービスを起動または停止します。

[重要なサービス (Critical Services)] セクション内の Unity Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断され、Unity Connection または Cisco Business Edition サーバの通常の機能が停止または低下する可能性があります。

Cisco Unity Connection クラスタが設定されている場合は、ステータスが [プライマリ (Primary)] になっているサーバの [重要なサービス (Critical Services)] セクション内のサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変化します。

- Unity Connection サービスのステータスを表示します。
- Unity Connection サービスのステータスをリフレッシュします。



### ヒント

問題をトラブルシューティングするためには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方のサービスの管理が必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability のサービスについては、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

この項では、5 つの手順 (Unity Connection サービスのアクティブ化、非アクティブ化、起動、停止、またはサービス ステータスのリフレッシュ) について説明します。アクティブ化、非アクティブ化、起動、および停止できるサービスは一度に 1 つだけです。



### コントロールセンターでサービスをアクティブ化する方法

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools(ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
  - ステップ 2** [サーバ(Server)] ドロップダウンボックスから該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択し、[移動(Go)] を選択します。
  - ステップ 3** [オプション サービス (Optional Services)] で、アクティブ化するサービスを探します。
  - ステップ 4** [アクティブ化ステータスの変更 (Change Activate Status)] カラムで、[アクティブ化(Activate)] を選択します。
- 

### コントロールセンターでサービスを非アクティブ化する方法

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools(ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
  - ステップ 2** [サーバ(Server)] ドロップダウンボックスから該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択し、[移動(Go)] を選択します。
  - ステップ 3** [オプション サービス (Optional Services)] で、非アクティブ化するサービスを探します。
  - ステップ 4** [アクティブ化ステータスの変更 (Change Activate Status)] カラムで、[非アクティブ化 (Deactivate)] を選択します。
- 

### コントロールセンターでサービスを起動する方法

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools(ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
  - ステップ 2** [サーバ(Server)] ドロップダウンボックスから該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択し、[移動(Go)] を選択します。
  - ステップ 3** 起動するサービスを探します。



(注) 非アクティブになっているサービスは、アクティブにしてから起動する必要があります。

- 
- ステップ 4** [サービス ステータスの変更 (Change Service Status)] カラムで、[開始(Start)] を選択します。
- 

### コントロールセンターでサービスを停止する方法

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools(ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。
  - ステップ 2** [サーバ(Server)] ドロップダウンボックスから該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択し、[移動(Go)] を選択します。
  - ステップ 3** 停止するサービスを探します。



**(注)** [ステータスのみのサービス (Status Only Services)] セクション内のサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability で起動したり停止したりできません。これらのサービスを起動または停止するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する必要があります。

Unity Connection クラスタが設定されている場合は、ステータスが [プライマリ (Primary)] になっているサーバの [重要なサービス (Critical Services)] セクション内のサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変化します。サービスを停止したときにステータスが変化しないようにするには、Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [クラスタ設定 (Cluster Configuration)] ページで、[パブリッシャ サーバで障害が発生した場合は、自動的にサーバのステータスを変更する (Automatically Change Server Status When the Publisher Server Fails)] チェックボックスをオフにする必要があります。

**ステップ 4** [サービス ステータスの変更 (Change Service Status)] カラムで、[停止 (Stop)] を選択します。



**(注)** [重要なサービス (Critical Services)] セクション内の Unity Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断され、Unity Connection または Cisco Business Edition サーバの通常の機能が低下する可能性があります。

アクティブでないサービスは開始も停止もできません。

**ステップ 5** クラスタ サーバのステータスが変化することについて確認を求められたら、[OK] を選択します。

#### コントロールセンターでサービスステータスを更新する方法

**ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools (ツール)] > [サービス管理 (Service Management)] を選択します。

**ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンボックスから該当する Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを選択し、[移動 (Go)] を選択します。

**ステップ 3** [リフレッシュ (Refresh)] を選択します。  
ステータス情報が更新され、最新のステータスが反映されます。



## レポートの使用

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのレポートの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- [レポートについて\(6-1 ページ\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定\(6-5 ページ\)](#)
- [レポートの生成と表示\(6-6 ページ\)](#)

## レポートについて

Cisco Unity Connection Serviceability を使用すると、システム設定とコールハンドラに関する情報を収集してレポートを作成できます。

表 6-1 に、Cisco Unity Connection Serviceability で生成可能なレポートの説明を示します。

**表 6-1** Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート

レポート名 (Report Name)	出力の説明
電話インターフェイス (Phone Interface) 失敗したログイン (Phone Interface Failed Logon)	電話による Unity Connection へのサインインの試行が失敗した各場合に関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• サインインに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号。</li><li>• ログインに失敗した日付と時刻。</li><li>• ユーザがサインイン試行回数の最大数に達したかどうか。</li></ul>
ユーザ (Users)	各ユーザに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 姓、名、およびエイリアス。</li><li>• ユーザに関連付けられた Unity Connection または Cisco Business Edition サーバを識別する情報。</li><li>• 課金 ID、サービス クラス、および内線番号。</li><li>• アカウントがロックされているかどうか。</li><li>• ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしていたかどうか。</li></ul>

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート(続き)

レポート名 (Report Name)	出力の説明
メッセージトラフィック (Message Traffic)	次のトラフィック カテゴリの総数が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>音声。</li> <li>ファクス。</li> <li>メール。</li> <li>不達確認 (NDR)。</li> <li>送信確認。</li> <li>開封確認。</li> <li>時間別合計。</li> <li>日別合計。</li> </ul>
ポート アクティビティ (Port Activity)	ボイス メッセージング ポートに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前。</li> <li>処理されたインバウンドコールの数。</li> <li>処理された発信 MWI コール数。</li> <li>処理された発信 AMIS コール数。</li> <li>処理された発信通知コール数。</li> <li>処理された発信 TRaP コール数。</li> <li>処理されたコールの総数。</li> </ul>
メールボックス ストア (Mailbox Store)	指定されたメールボックス ストアに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メール データベース名。</li> <li>表示名。</li> <li>サーバ名。</li> <li>アクセスが可能かどうか。</li> <li>メールボックス ストアのサイズ。</li> <li>最後のエラー。</li> <li>ステータス。</li> <li>メール データベースを削除できるかどうか。</li> </ul>
ダイヤルプラン	Unity Connection または Cisco Business Edition サーバ上で設定されたサーチ スペースのリストと、各サーチ スペースに割り当てられたパーティションの順序付きリストが含まれています。  サーバがデジタル ネットワークに含まれている場合は、ネットワーク上のその他のすべての Unity Connection の場所にあるサーチ スペースとそれに関連付けられたパーティション メンバーシップもリストされます。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート(続き)

レポート名 (Report Name)	出力の説明
ダイヤル検索範囲 (Dial Search Scope)	Unity Connection ディレクトリ内に設定されている指定されたパーティション内のすべてのユーザとその内線番号のリストが含まれています。パーティションが指定されていない場合は、ディレクトリ内に設定されているすべてのパーティションのすべてのユーザとその内線番号がリストされます。
ユーザ電話ログインおよび MWI (User Phone Login and MWI)	ユーザごとの電話ログイン、MWI アクティビティ、および電話機に対するメッセージ通知に関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前、内線番号、およびサービス クラス。</li> <li>各アクティビティの日付と時刻。</li> <li>各アクティビティのソース。</li> <li>完了した処理 (ログイン、MWI のオン/オフ、電話機のダイヤルアウトなど)。</li> <li>ダイヤルアウト番号と結果 (電話機に対するメッセージ通知の場合にのみ適用可能)。</li> <li>ログイン時のユーザに対する新しいメッセージの数。</li> </ul>
ユーザ メッセージ (User Message) アクティビティ (Activity)	送受信されたメッセージに関するユーザごとの次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前、内線番号、およびサービス クラス。</li> <li>各メッセージの日付と時刻。</li> <li>メッセージのタイプ。</li> <li>完了した処理 (メッセージの新規作成やメッセージの開封など)。</li> <li>メッセージ送信者に関する情報。</li> </ul>
同報リスト	次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>リストの名前と表示名。</li> <li>リストが作成された日付と時刻 (日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)。</li> <li>リストに登録されたユーザ数のカウント。</li> <li>[リスト メンバーを含む (Include List Members)] チェックボックスがオンになっている場合は、リストのメンバーになっているユーザごとのエイリアスのリスト。</li> </ul>
ユーザ ロックアウト (User Lockout)	ユーザのエイリアス、ユーザがログインに失敗した回数、クレデンシャルのタイプ (結果が「4」の場合は Unity Connection カンパセッションからのログイン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログイン試行を示す)、およびアカウントがロックされた日付と時刻が含まれています。 (日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)。
未使用ボイス メール アカウント	ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザ アカウントが作成された日付と時刻が含まれています。 (日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート(続き)

レポート名 (Report Name)	出力の説明
転送コール課金 (Transfer Call Billing)	各コールに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザの名前、内線番号、および課金 ID。</li> <li>コールが発生した日付と時刻。</li> <li>ダイヤルされた電話番号。</li> <li>転送の結果(接続、無応答(RNA)、通話中、または不明)。</li> </ul>
発信課金 (Outcall Billing) 詳細 (Detail)	日付および電話をかけたユーザの内線番号によって整理された次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>名前、内線番号、および課金 ID。</li> <li>コールが発生した日付と時刻。</li> <li>呼び出された電話番号。</li> <li>コールの結果(接続、無応答(RNA)、通話中、または不明)。</li> <li>コールの長さ(秒単位)。</li> </ul>
発信課金 (Outcall Billing) 要約	日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、課金 ID に従って整理されており、時間ごとに指定されたダイヤルアウト秒数が示された 1 日 (24 時間) のリストです。
コールハンドラ (Call Handler) トラフィック (Call Handler Traffic)	各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1 行が 1 時間分を表します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コールの総数。</li> <li>電話機のキーパッドの各キーが押された回数。</li> <li>内線番号。</li> <li>無効な内線番号。</li> <li>グリーティング処理の回数。</li> <li>発信者が電話を切った回数。</li> </ul>
システム設定 (System Configuration)	Unity Connection システムの設定のすべての側面に関する詳細情報が含まれています。
ユーザ別 SpeechView アクティビティレポート (SpeechView Activity Report By User)	特定の期間中の特定のユーザに関する、文字変換されたメッセージ、失敗した文字変換、および切り捨てられた文字変換の総数が含まれています。レポートがすべてのユーザに対して実行された場合、出力はユーザごとに分割されます。
SpeechView アクティビティ要約レポート (SpeechView Activity Summary Report)	特定の期間中のシステム全体に関する、文字変換されたメッセージ、失敗した文字変換、および切り捨てられた文字変換の総数が含まれています。メッセージが複数の受信者に送信された場合でも、そのメッセージは 1 回しか文字変換されないため、文字変換アクティビティは 1 回だけカウントされます。

表 6-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート(続き)

レポート名 (Report Name)	出力の説明
HTTPS ネットワーキング同期エラー レポート (HTTPS Networking Sync Error Report)	<p>(HTTPS ネットワーキングにのみ該当)ディレクトリ同期中に同期しないディレクトリ オブジェクトに関連する以下の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作成日 (Creation Date)</li> <li>• 失敗した ObjectId</li> <li>• USN</li> <li>• オブジェクト タイプ (Object Type)</li> <li>• ロケーションの表示名</li> <li>• HTTP(S) のリンク</li> <li>• エラー メッセージ</li> </ul>

## レポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection はデータを収集して保存するように自動的に設定されるので、ユーザはそのデータからレポートを生成できます。この項で列挙するパラメータは、生成対象レポートの出力に合わせて調整できます。すべてのレポート パラメータの設定が、Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [レポート (Reports)] ページにあります。

レポート データは、データの保存に関して設定したパラメータに応じて、徐々に上書きされます。履歴を残すためにレポートを保管する場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを立て、生成されたレポートを Unity Connection または Cisco Business Edition サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

- [データ収集サイクルの間隔(ミリ秒) (Milliseconds Between Data Collection Cycles)]: デフォルトでは 30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されています。この設定によって、Unity Connection がレポート データの収集サイクル間で待機する時間が制御されます。
- [レポート データベースのデータ保存期間(日) (Days to Keep Data in Reports Database)]: デフォルトでは、180 日に設定されています。生成しているレポートの時間範囲にこれを超える日数を指定した場合でも、データの日数はここで設定した値によって制限されることに注意してください。
- [レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)]: デフォルトでは 25,000 レコードに設定されています。このフィールドに許容される最大値は 30,000 レコードです。生成するレポートが許容されるレコードの最大数を超過している場合は、レポートを何回かに分けて生成します(たとえば、1 回に含める日付の範囲やユーザ アカウント数を減らします)。



(注)

[ユーザ メッセージ アクティビティ レポート (User Message Activity Report)] の [レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)] 設定は、デフォルトの 25,000 レコードではなく、15,000 レコードに制限されています。これは、レポートのサイズによるものです。

- [進捗インジケータを表示するために必要な最小レコード数 (Minimum Records Needed to Display Progress Indicator)]: デフォルトでは 2,500 レコードに設定されています。このフィールドに許容される最大値は 10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求されたレポートのサイズが大きく、完了に長時間かかる可能性がある場合に警告することです。Unity Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザ セッションは、レポートが生成されるまで開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズ、生成されるレポートのタイプに応じて、レポートの生成に長い時間がかかる可能性があります。その間、ブラウザを使用できず、Connection Administration セッションを開いたままにしておく必要があります。

## レポートの生成と表示

レポートを生成する際は、次の項目の一部または全部を指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト (ユーザ アカウントやコール ハンドラなど)
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式は、次の中から選択できます。

<b>Web ページ</b>	HTML ファイル レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。
<b>カンマ区切りのファイル</b>	テキスト ファイル (CSV ファイルともいう)。レポート出力は、カンマで区切られたデータ スtring として表示されます。 スプレッドシート アプリケーションなどの別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。
<b>PDF ファイル</b>	レポート出力は、印刷および保存が可能な PDF として表示されます。 レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。

レポートを生成するには、システムがビジー状態でない時間帯が最適です。Unity Connection が多くのコールを処理していない通常の営業時間後、または、他のプロセスが実行中でない場合 (フルバックアップの前後など) です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが (それぞれ別のブラウザから) 同時に生成された場合は、レポートが順次待機し、一度に 1 つずつ処理されます。



### 注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザへの応答が遅くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールできません。レポートの生成中に Unity Connection または Cisco Business Edition サーバをシャットダウンしたり、Connection Administration のブラウザ セッションを終了させると、レポートの生成がキャンセルされます。



### レポートを生成して表示するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[ツール(Tools)] > [レポート(Reports)] を選択します。
- ステップ 2** [Serviceability レポート (Serviceability Reports)] ページで、生成するレポートの名前を選択します。
- ステップ 3** レポート出力に適切なファイル形式を選択します。
- ステップ 4** フィールドが使用可能な場合は、開始時間と終了時間(年、月、日、時刻)を選択して、日付の範囲を設定します。
- ステップ 5** 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。
- ステップ 6** [レポートの生成(Generate Report)] を選択します。
- ステップ 7** [ステップ 3](#) で選択したファイル形式に従って、レポート出力を表示します。

<b>Web ページ</b>	出力がブラウザ ウィンドウに表示されます。
<b>カンマ区切りのファイル</b>	[ファイルのダウンロード (File Download)] ダイアログボックスが開き、ファイルを開くか保存するかについて確認するメッセージが表示されます。
<b>PDF ファイル</b>	[ファイルのダウンロード (File Download)] ダイアログボックスが開き、ファイルを開くか保存するかについて確認するメッセージが表示されます。





## ボイス ネットワーク マップ ツールの使用

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのボイス ネットワーク マップ ツールの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- [ボイス ネットワーク マップ ツールについて\(7-1 ページ\)](#)
- [Unity Connection サイト内の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定\(7-2 ページ\)](#)
- [ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示\(7-3 ページ\)](#)

### ボイス ネットワーク マップ ツールについて

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すると、Unity Connection サイト内のロケーションの状態を 1 か所から確認できます (このツールでは、サイト間ゲートウェイとして機能しているサイト内のロケーションを特定することもできますが、その他のサイトの状態は表示できません)。

このツールを使用すれば、サイト内のレプリケーション問題をすばやく特定したり、サイト内の任意の 2 つのロケーション間でレプリケーションのステータスに関する情報を入手したりできます。

このツールには、サイト表示、データ表示、およびサイト表示内のアイコンの意味を説明する鍵が含まれています。

サイト表示には、Unity Connection サイト内のロケーションごとのアイコンが表示されます。アイコン自体がロケーションの健全性のインジケータになっています (特定のロケーションからデータが収集できないことを示す場合もあります)。

データ表示には、サイト表示で選択されたロケーションのペアに関する情報が表示されます。この情報には、現在、あるロケーションでディレクトリ情報が別のロケーションと一緒にプルまたはプッシュされているかどうかと、あるロケーションでやり取りされるレプリケーション メッセージの USN、つまり、シーケンス番号に関する情報が含まれています (2 つのロケーションが同期している場合は、レプリケーション更新を送信しているロケーションの [最後に送信された USN (Last USN Sent)] と [最後に応答確認された USN (Last USN Acknowledged)] の値が、更新を受信しているロケーションの [最後に受信された USN (Last USN Received)] の値と一致します。レプリケーション中は、[最後に応答確認された USN (Last USN Acknowledged)] の値が [最後に送信された USN (Last USN Sent)] の値よりも低いのが普通です)。Cisco Unity Connection Administration でもプッシュ/プル状態や USN 情報を検索できますが、ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すると、1 か所からすべてを確認できるため、情報へのアクセスが容易になります。

サイト表示内のアイコンに関する詳細情報については、鍵を使用します。ポインタを鍵の中のアイコンに移動すると、それに関する情報が表示されます。[詳細 (More)] リンクを選択すると、その他のアイコンを表示できます。



ヒント

オプションで、ロケーション アイコンを右クリックすると、そのロケーションの Cisco Unity Connection Serviceability または Cisco Unity Connection Administration にアクセスできます。ロケーションがサイト間リンクへのゲートウェイの場合は、リモート サイト内のサーバのマップを表示することもできます。

## Unity Connection サイト内の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定

ボイス ネットワーク マップ ツールを使って Unity Connection サイト内の他のロケーションから必要なデータを収集するには、このツールを使用するロケーションに、サイト内の他のロケーションに関するサインイン情報が保存されている必要があります。サインイン情報はサイト内のロケーション間でレプリケートされないため、サイト内の複数のロケーションでボイス ネットワーク マップ ツールを使用する場合は、ツールを使用するロケーションごとに、この項の手順を実行する必要があります。



(注)

サインイン情報は、Connection Administration の [一括編集 (Bulk Edit)] モードでネットワーク全体のオブジェクトを編集する場合にも使用されます。サインイン情報を変更すると、一括編集モードへのアクセスにも影響します。

### Unity Connection サイト内の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスを設定するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ネットワーク (Networking)] を展開してから、[Unity Connection ロケーション パスワード (Location Passwords)] を選択します。
- ステップ 2** [エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Passwords)] ページで、リストから Unity Connection ロケーションのいずれかを選択します。
- ステップ 3** [エイリアス (Alias)] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントは、システム管理者ロールを持っている必要があります。
- ステップ 4** [パスワード (Password)] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。



ヒント

リモート アクセスは、必要なときにのみ設定することもできます。リモート アクセスが不要になった場合は、[エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Password)] ページで、該当するアカウントの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択すると、サインイン情報を削除できます。

- ステップ 7** 必要に応じて、[ステップ 2](#)～[ステップ 6](#) を繰り返して、Unity Connection サイト内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定します。

# ボイスネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用するには、Unity Connection サイト内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定して、ツールに必要なデータを収集できるようにする必要があります。[Unity Connection サイト内の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定 \(7-2 ページ\)](#)

ボイス ネットワーク マップ ツールでレプリケーション ステータス情報を表示するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability の [ツール (Tools)] メニューで、[ボイス ネットワーク マップ (Voice Network Map)] を選択します。
- ステップ 2** [ボイス ネットワーク マップ (Voice Network Map)] ページで、レプリケーション ステータス情報を表示する最初のロケーションを選択します。
- ステップ 3** [ステップ 2](#) で選択したロケーションと別のロケーションの間で送信、受信、または確認応答された USN メッセージに関するレプリケーション状態とデータを表示するには、2 つ目のロケーションにポインタを移動します。



#### ヒント

ポインタを新しいロケーションに移動することによって、2 つ目のロケーションをすばやく変更できます。または、情報表示を 1 つのロケーション ペアに「ロック」するには、Control キーを押しながら 2 つ目のロケーションを選択します。ロックを解除するには、Control キーを押しながら、2 つ目のロケーションを選択する操作を繰り返します。

- ステップ 4** 最初のロケーションを変更するには、新しいロケーションを選択してから、[ステップ 3](#) を繰り返します。
- ステップ 5** 指定した更新インターバルに基づいて、ツールの表示情報が定期的に変更されます。更新インターバルを変更するには
  - a. [設定 (Config)] タブを選択します。
  - b. [アップデート間隔 (Update Interval)] フィールドに、表示情報の更新頻度に関する値を入力します。最小値は 15 秒で、デフォルト値は 30 秒です。Tomcat サービスが再起動されるたびに、インターバルがデフォルト値にリセットされます。
  - c. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 6** 定期更新を一旦停止して、現在のデータを表示し続けるには、[一時停止 (Pause)] タブを選択します。タブのラベルが [開始 (Resume)] に変化します。ツールの定期更新を再開させる場合に選択します。
- ステップ 7** 次の更新インターバルを待たずにレプリケーション情報を即時更新するには、[更新 (Update)] タブを選択します。

■ ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示



## HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツールの使用

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのボイス ネットワーク マップ ツールの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- [HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツールの理解\(8-1 ページ\)](#)
- [HTTPS ネットワーク上の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定\(8-2 ページ\)](#)
- [ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示\(8-3 ページ\)](#)

### HTTPS ネットワーキングでのボイス ネットワーク マップ ツールの理解

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すると、HTTPS Cisco Unity Connection ネットワーク内のロケーションの状態を 1 か所から確認できます。

このツールを使用すれば、ネットワーク内のレプリケーション問題をすばやく特定したり、ネットワーク内の任意の 2 つ以上のロケーション間でレプリケーションのステータスに関する情報を入手したりできます。

このツールには、ネットワーク表示、データ表示、およびネットワーク表示内のアイコンの意味を説明する鍵が含まれています。

ネットワーク表示には、HTTPS ネットワーク内のロケーションごとのアイコンが表示されます。アイコン自体がロケーションの健全性のインジケータになっています(特定のロケーションからデータが収集できないことを示す場合もあります)。たとえば、特定のロケーションのパスワードが設定されていない場合、ネットワーク表示でそのロケーションの上にマウスのカーソルを置くと、対応するメッセージが表示されます。

データ表示には、ネットワーク表示で選択されたロケーションのペアに関する情報が表示されます。この情報には、**ホスト アドレス**、**表示名**、**前回の同期時間**、**レプリケーション セット**、**最大 USN**、**最後の USN**、およびネットワーク内の 2 つのロケーション間の **SYNC MODE** が含まれます。ディレクトリ同期に関連するフィールドの詳細については、Cisco Unity Connection Administration の該当するページに移動し、[ヘルプ (Help)] > [このページ (This Page)] を参照してください。

ネットワーク表示内のアイコンに関する詳細情報については、鍵を使用します。ポインタを鍵の中のアイコンに移動すると、それに関する情報が表示されます。[詳細 (More)] リンクを選択すると、その他のアイコンを表示できます。



ヒント

オプションで、ロケーション アイコンを右クリックすると、そのロケーションの Cisco Unity Connection Serviceability または Cisco Unity Connection Administration にアクセスできます。

## HTTPS ネットワーク上の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定

ボイス ネットワーク マップ ツールを使って HTTPS ネットワーク内の他のロケーションから必要なデータを収集するには、このツールを使用するロケーションに、HTTPS ネットワーク内の他のロケーションに関するサインイン情報が保存されている必要があります。サインイン情報はネットワーク内のロケーション間でレプリケートされないため、サイト内の複数のロケーションでボイス ネットワーク マップ ツールを使用する場合は、ツールを使用するロケーションごとに、この項の手順を実行する必要があります。



(注)

サインイン情報は、Connection Administration の [一括編集 (Bulk Edit)] モードでネットワーク全体のオブジェクトを編集する場合にも使用されます。サインイン情報を変更すると、一括編集モードへのアクセスにも影響します。

### HTTPS ネットワーク上の他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスを設定する方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ネットワーク (Networking)] を展開してから、[Unity Connection ロケーション パスワード (Location Passwords)] を選択します。
- ステップ 2** [エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Passwords)] ページで、リストから Unity Connection ロケーションのいずれかを選択します。
- ステップ 3** [エイリアス (Alias)] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントは、システム管理者ロールを持っている必要があります。
- ステップ 4** [パスワード (Password)] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 6** [保存されたエンタープライズ管理パスワード (Stored Enterprise Administration Passwords)] では、リモート アクセスを設定する Unity Connection ロケーションに対応するチェックボックスをチェックします。
- ステップ 7** [保存 (Save)] を選択します。



ヒント

リモート アクセスは、必要なときのみ設定することもできます。リモート アクセスが不要になった場合は、[エンタープライズ管理パスワードの検索 (Search Enterprise Administration Password)] ページで、該当するアカウントの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択すると、サインイン情報を削除できます。

- ステップ 8** 必要に応じて、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返して、HTTPS ネットワーク内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定します。



# ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用するには、HTTPS ネットワーク内の他のロケーションへのリモート アクセスを設定して、ツールに必要なデータを収集できるようにする必要があります。[HTTPS ネットワーク上の他の Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定](#)

## HTTPS ネットワーク内のボイス ネットワーク マップ ツールでレプリケーション ステータス情報を表示する方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability の [ツール(Tools)] メニューで、[ボイス ネットワーク マップ(Voice Network Map)] を選択します。
- ステップ 2** [ボイス ネットワーク マップ(Voice Network Map)] ページで、レプリケーション情報を表示する最初のロケーションを選択します。
- ステップ 3** レプリケーション セットおよび [ステップ 2](#) および他のロケーションで選択したリモート ロケーションに関連付けられた最後の USN などのレプリケーション情報を表示するには、2 番目のロケーションにポインタを移動します。



(注)

- また、HTTP(S) ネットワーク内の参照ロケーションに関して、直接または間接的に接続されたロケーションを VNMAP ツールを使用して表示することができます。
- ロケーションを選択せずにネットワーク表示内の任意のロケーション上にポインタを置くと、以下の情報がデータ表示セクションに表示されます。
  - ホスト アドレス (Host Address)
  - [表示名 (Display Name)]
  - リトライ キューのサイズ (Retry Queue Size)



ヒント

ポインタを新しいロケーションに移動することによって、2 つ目のロケーションをすばやく変更できます。または、情報表示を 1 つのロケーション ペアに「ロック」するには、Control キーを押しながら 2 つ目のロケーションを選択します。ロックを解除するには、Control キーを押しながら、2 つ目のロケーションを選択する操作を繰り返します。

- ステップ 4** 最初のロケーションを変更するには、新しいロケーションを選択してから、[ステップ 3](#) を繰り返します。
- ステップ 5** 指定した更新インターバルに基づいて、ツールの表示情報が定期的に更新されます。更新インターバルを変更するには
- a. [設定(Config)] タブを選択します。
  - b. [アップデート間隔(Update Interval)] フィールドに、表示情報の更新頻度に関する値を入力します。最小値は 15 秒で、デフォルト値は 30 秒です。Tomcat サービスが再起動されるたびに、インターバルがデフォルト値にリセットされます。
  - c. [保存(Save)] を選択します。

## ■ ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示

- ステップ 6** 定期更新を一旦停止して、現在のデータを表示し続けるには、[一時停止 (Pause)] タブを選択します。タブのラベルが [開始 (Resume)] に変化します。ツールの定期更新を再開させる場合に選択します。
- ステップ 7** 次の更新インターバルを待たずにレプリケーション情報を即時更新するには、[更新 (Update)] タブを選択します。
-



---

## C

- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool RTMT を参照 [2-1](#)
- Cisco Unity Connection Serviceability の機能 [1-1](#)

---

## F

- Firefox、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

---

## I

- Internet Explorer、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

---

## R

- RTMT、アラームを収集および表示するための使用 [2-1](#)

---

## S

- SpeechView アクティビティ要約レポート、説明 [6-4](#)
- SQL データベース、アラーム定義の検索 [2-1](#)

---

## あ

### アクセス

- Cisco Unity Connection Serviceability [1-3](#)

- ヘルプ [1-4](#)

### アラーム

- 概要 [2-1](#)

- 重大度 [2-2](#)

- 設定 [2-2](#)

- データベースでの定義の検索 [2-1](#)

- 定義 [2-1](#)

- 定義の表示 [2-2](#)

- 有効化 [2-2](#)

---

## い

- インターフェイス、使用 [1-4](#)

---

## か

### 概要

- Cisco Unity Connection Serviceability [1-1](#)

- ボイス ネットワーク マップ ツール [7-1, 8-1](#)

### 管理

- Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバのステータス [4-1](#)

- Cisco Unity Connection クラスタ内のポート  
管理者ワークステーション、ブラウザの設定 [1-2](#)

---

## き

### 機能サービス

- 起動、停止、再起動、およびリフレッシュ [5-4](#)

- リスト [5-1](#)

---

## け

- 検索、バージョンの [1-4](#)

## こ

- コールハンドラトラフィックレポート、説明 [6-4](#)
- コントロールセンター
  - サービスのリスト [5-1](#)
  - サービスを管理するための使用 [5-4](#)

## さ

- サーバステータス、Cisco Unity Connection クラスタ内の管理 [4-1](#)
- サービス
  - アクティブ化 [5-4](#)
  - 起動 [5-4](#)
  - 停止 [5-4](#)
  - 非アクティブ化 [5-4](#)
  - リスト [5-1](#)
  - リフレッシュ [5-4](#)
- サービスのアクティブ化 [5-4](#)
- サービスの起動 [5-4](#)
- サービスの停止 [5-4](#)
- サービスの非アクティブ化 [5-4](#)
- サービスのリフレッシュ [5-4](#)

## し

- システム設定レポート、説明 [6-4](#)
- 使用、インターフェイスの [1-4](#)
- 診断トレース、概要 [3-1](#)

## せ

- 設定
  - Connection サイト内の他の Connection ロケーションへのリモート アクセス、ボイス ネットワーク マップ ツール [7-2, 8-2](#)
  - 管理者ワークステーション上のブラウザ [1-2](#)

## た

- ダイヤルプランレポート、説明 [6-2](#)
- ダイヤル検索範囲レポート、説明 [6-3](#)

## て

- データベース、アラーム定義の検索 [2-1](#)
- 転送コール課金レポート、説明 [6-4](#)
- 電話インターフェイスのログイン失敗レポート (Phone Interface Failed Logon Report)、説明 [6-1](#)

## と

- 同報リスト レポート、説明 [6-3](#)
- トレース
  - 概要 [3-1](#)
  - マイクロ、有効化 [3-2](#)
  - マイクロ、リスト [3-3](#)
  - マクロ、有効化 [3-10](#)
  - マクロ、リスト [3-11](#)
  - ログ ファイルの設定 [3-2](#)

## は

- バージョン、検索 [1-4](#)
- 発信課金詳細レポート、説明 [6-4](#)
- 発信課金要約レポート、説明 [6-4](#)
- パラメータ、レポートの設定 [6-5](#)

## ひ

- 表示
  - ボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーションステータス情報 [7-3, 8-3](#)
  - レポート [6-6](#)

---

**ふ**

ブラウザ、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

---

**へ**

ヘルプ

アクセス [1-4](#)

---

**ほ**

ポート アクティビティ レポート、説明 [6-2](#)

ポート、Cisco Unity Connection クラスタ内の管理 [4-1](#)

ボイス ネットワーク マップ ツール

Connection サイト内の他の Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定 [7-2, 8-2](#)

概要 [7-1, 8-1](#)

レプリケーション ステータス情報の表示 [7-3, 8-3](#)

---

**ま**

マイクロ トレース

有効化 [3-2](#)

リスト [3-3](#)

マクロ トレース

有効化 [3-10](#)

リスト [3-11](#)

---

**み**

未使用ボイスメール アカウント レポート、説明 [6-3](#)

---

**め**

メールボックス ストア レポート、説明 [6-2](#)

メッセージ トラフィック レポート、説明 [6-2](#)

---

**ゆ**

ユーザ メッセージ アクティビティ レポート、説明 [6-3](#)

ユーザ レポート、説明 [6-1](#)

ユーザ ロックアウト レポート、説明 [6-3](#)

ユーザ電話ログインおよび NMI レポート (User Phone Login and MWI Report)、説明 [6-3](#)

ユーザ別 SpeechView アクティビティ レポート、説明 [6-4](#)

---

**れ**

レポート

生成 [6-6](#)

設定パラメータの設定 [6-5](#)

説明 [6-1](#)

表示 [6-6](#)

レポート設定パラメータの設定 [6-5](#)

レポートの生成 [6-6](#)

---

**ろ**

ログ ファイル、トレース用の設定 [3-2](#)

